

統合分野・在宅看護論実習の計画

実習目的 実習目標	<p>地域で生活しながら療養する人々とその家族の生活を理解し、在宅で提供する看護実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>1. 療養者と家族が生活する場を理解し、対象に応じた看護援助を考え実践することができる</p> <p>2. 在宅ケアに関係する職種や機関を理解し、連携・協働の必要性と意義が考えられる。</p> <p>3. 健康障害に応じた在宅ケアシステムについて理解し、必要な社会資源や保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を考えることができる。</p>		
実習施設別 目標	訪問看護ステーション	老人保健・福祉施設	市町村包括支援センター
	<p>1. 療養者の訪問目的について説明を受け、理解できる。</p> <p>2. 療養者の生活を知り、行われている援助内容や活用している社会資源とその必要性について理解できる。</p> <p>3. 訪問時に必要な看護援助について考えられ、助けを受けながら安全に実施できる。</p>	<p>1. 介護保険制度における施設サービスの内容や特徴、基準が理解できる。</p> <p>2. 施設で暮らす高齢者の日常生活状況が理解できる。</p> <p>3. 高齢者を支える制度とシステムを理解し、福祉チームの中での看護の役割について考えられる。</p>	<p>1. 地域包括支援センターの役割・機能が理解できる。</p> <p>2. 在宅ケアに関係する職種や機関との連携内容を理解し、連携・協働の意義が考えられる。</p> <p>3. 在宅ケアシステムを理解し、その中での看護の役割について考えられる。</p>
評価方法	出席状況・態度・実習評価表による総合評価		
先修条件	<p>在宅看護概論、在宅ケアシステム論、在宅看護援助論、在宅看護技術論の履修</p> <p>2年次で行う臨地実習（成人Ⅰ・Ⅱ、老年Ⅰ、小児Ⅰ）の単位修得</p>		